

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県名【滋賀県】

学校名【 大津市立皇子山中学校 】

1 実践テーマ	【Ⅲ、Ⅴ】
2 実施対象者	皇子山中学校 全校生徒、教職員、保護者、地域関係者
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (保健体育) ② 行事名 (部活動リーダー研修) ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目 標 (ねらい)	ハンディキャップを克服し、トップアスリートとして努力しておられる選手のお話を聞くことにより、継続して努力することの大切さを学ぶ。また、主体的に運動・スポーツに親しむ態度や習慣を身につけることを目的とする。
5 取組内容	①事前学習 パラリンピックの歴史、パラアスリートについて、パラトライアスロンとは 宇田秀生さんについて ②保健体育実技指導 陸上 3年生保体実技 ③講演 演題「どんなときでも前向きに」
6 主な成果	・3年生の体育実技「陸上種目」の授業において、長距離を走る際のアドバイスやフォーム、心構えなどを指導していただいた。生徒たちは具体的な指導をしていただいたことで、より陸上種目への興味や関心が増し、技能の向上にも結びついた。 ・パラリンピック競技大会の意義や目的、歴史さらにパラアスリートが取り組んでいる競技種目、とりわけパラトライアスロンの種目などが具体的に理解できたことにより、障害のある人たちがスポーツに取り組む意義や社会的支援の体制などが理解できた。 ・宇田秀生さんが大きな事故の結果、障害を負いながらも、新たにパ

	ラトライアスロンに打ち込み、困難を克服して世界大会で上位の成績を修めるようになってきたのかを伺うことで、どんなときでも前向きに物事を考えることの意義を生徒たちは深く理解ができた。
7実践において工夫した点 (事業の特色)	・事前学習の時間を1時間取り入れることにより、パラリンピックの歴史と意義、パラトライアスロンという競技の特色、講演していただく宇田秀生さんについて事前に理解する。 ・本校が4月から実践している「部活動リーダー研修」の一環として、スポーツに親しむ楽しさ、スポーツを通じた人格形成などを学ぶ場としての設定を、事前に宇田秀生さんにご来校いただき、打合せをさせて頂いた。 ・困難やハンディを克服し、前向きに生きる宇田秀生さんの生き方から、人権教育としての視点でのお話もしていただいた。 ・保健体育の陸上種目の授業の指導を、本校教職員と共にしていただくことにより、スポーツに親しむ楽しさや心構えなどを学べる機会を設定した。
8主な課題等	・事前学習に適切な視聴覚教材があまり豊富にはないので、本校教員が作成した視聴覚教材で学習した。 ・教育課程の関係から、事前学習や当日の講演をしていただく時間が十分に確保できなかったこと。 ・パラリンピックそのものへの生徒、教職員、保護者の知識や理解さらに興味関心が少なく、それを学校内で盛り上げていくこと。
9来年度以降 の実施予定	・次年度も「部活動リーダー研修」の位置付けでの「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」への参加も前向きに検討していきたいと考えているが、具体的な内容や時期に関しては、他の学校行事などとの関連を十分に今後検討する必要性があり、未定である。



体育実技 ランニング指導



体育実技
長距離を走る時の心構えについて



パラトライアスロンの説明



生徒に問いかけ
「パラリンピックの種目を知ってますか？」



宇田さんの質問に挙手する生徒たち



自転車に生徒が乗車体験